

年頭のご挨拶

2013年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は当社に対し格別のご高配を賜り誠にありがとうございました。本年も引き続きお引き立てのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の当業界を取り巻く内外諸情勢を見ますと、一進一退の欧州債務危機問題や世界的なデリバティブ取引規制強化の動き等を背景として、総じてリスク・オフの風潮に覆われ、各種の市場取引が低迷する厳しい状況が続きました。また、総合取引所の設立に係る受け皿法の整備が行われるとともに、東京、大阪の両証券取引所の経営統合が決定されるなど、業界の将来にも影響を及ぼす可能性のある動きが多々見られました。特に、来月には東京穀物商品取引所の市場が東京工業品取引所及び関西商品取引所へ移管されることに伴い、その60年の歴史に幕を閉じる予定となっておりますが、当業界に長く携わって来られた関係者の感慨もひとしおのことと拝察いたします。このように、まさしく国内取引所が再編に向けた大きな岐路に立たされている中であって、当社も昨年末に東京工業品取引所の完全子会社となり、グループとしての体制強化を図ったところであります。

前述のような環境の下、昨年の商品取引状況は前年比80%を割込む極めて厳しいものとなりましたが、かかる状況を官民一体となって打破すべく、主務省においては産業構造審議会商品先物取引分科会において商品先物市場の活性化策が検討され、その一環として、例えば液化天然ガス（LNG）の先物市場の創設について当社を含めた業界実務担当者による協議会が設置されております。

また、当社といたしましても、同分科会においても提言されたOTCクリアリングについて、東工取と協力して清算参加者や当業者等へのヒアリングを積極的に実施し、その結果を踏まえ、比較的ニーズがあると考えられる国内石油製品のスワップ取引に係るクリアリング業務の開始に向けた検討、準備を進めているところであります。

一方で、クリアリングの信用力強化策として、各種の信用リスク管理対策の強化に努めるとともに、清算システム障害などの業務リスクに対するBCP、CP対応策の整備を進めており、その一環として本年5月予定のシステム更改に併せてバックアップサイトの設置を決定いたしました。

当社といたしましては、クリアリングハウスの信頼性向上に対する世界的な要請に応えるべく、今後もこうした課題に鋭意取り組むとともに、日常清算業務の的確な遂行に万全を尽くす所存でありますので、本年につきましても皆様の一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

2013年1月

株式会社 日本商品清算機構

代表取締役社長 高橋 英樹